

青梅市社会教育委員会議 7 月定例会会議録

平成 28 年 7 月 19 日

203 会議室

出席者 委員 10 名

事務局 3 名

1 開 会

【議 長】連日猛暑である。海の日を過ぎると学校も夏休みに入り、梅雨も明けるというイメージだが、予報によると東海地方までは梅雨明けしたが、関東はまだもう少し梅雨が長引きそう。暑さに負けず頑張りましょう。

【課 長】夏休み期間中、子供向けの体験事業を企画し運営、実施する。本日配布した、羽村市、福生市と合同で行っている子ども体験塾のチラシや、生涯学習だよりに子供向けの企画を載せているので確認いただきたい。

2 報告事項

(1) 平成 28 年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第 1 回理事会について

ア 日 時 平成 28 年 7 月 19 日 (火) 午後 3 時から

イ 場 所 八王子市生涯学習センター (クリエイトホール)
5 階ホール

ウ 参加者 新藤議長、随行 土屋

【事務局】事務局から概要説明。

【議 長】ブロック研修会という大事な会議がある。青梅市は第 1 ブロックに入る。今年度の第 1 ブロックの幹事市はあきる野市で、11 月 5 日 (土) に開催される予定。幹事市のあきる野市としては、なるべく多くの委員に参加してもらいたいと準備をしているので、各委員予定を入れておいていただきたい。

都市社連協の予算逼迫の件では、緊急的に実施されたアンケートの集計が出されたが、各市とも回答は予算の範囲内で行うことができる、収入額に見合った運営をするというものであった。各市から入ってくる負担金の範囲内で運営するという事が理事会で確認された。

(2) (一社) 全国社会教育委員連合平成 28 年度第 1 回総会議事録について
(報告資料 1)

【事務局】事務局から概要説明。

【議 長】社教連の総会で、「組織存続のための緊急提案について」の提案の採決があった。都市社連協は白票を投じたとの事であったが、1 口 2,000 円の任意の寄付の募金のみ決定した。

(3) (一社) 全国社会教育委員連合機関誌『社教情報』第75号の購入について (報告資料 2)

【事務局】事務局から購入について案内。希望者は申し出てほしい。

～議長が購入を希望～

(4) 青梅市社会教育委員会議6月定例会会議録について (報告資料 3)

【事務局】事務局から概要説明。

(5) その他

特になし

3 協議事項

(1) 第58回全国社会教育研究大会千葉大会について (協議資料 1)

ア 日 時 平成28年10月26日(水)～28日(金)

イ 場 所 千葉県文化会館(千葉県千葉市)

ウ 参加者

【事務局】事務局から概要説明。2日目のみ参加予定。

【議長】参加希望者は事務局まで連絡願いたい。

～新藤議長、横手委員、園田委員の3名が参加希望～

(2) 青梅市社会教育関係団体活動費補助金について (協議資料 2)

【事務局】事務局から概要説明。

【議長】各委員から意見をいただきたい。

【委員】今回廃止されるもの変わる補助金制度は用意されているのか。もしくは助成しないという事か。

【事務局】廃止になった場合それに代わるものが創設される予定はない。

【委員】お金に関することは大事な事だが、あまり締め付けていくのは。本来、余裕があることで社会教育というもののあるべき姿が実践されていくと思うのだが、本当にこのような形を取っていいのか疑問。

【委員】ほかにも見直さなければならぬ補助金はあるのか。

【事務局】今回、市全体で22の補助金が終期を迎える。これらの補助金は続ける理由があるもののみ継続し、それ以外のは廃止することとなる。

【委員】文化団体連盟では、昨年から機関紙について各団体が広告を集めて発行している。これが毎年だと、文化団体連盟内でも会員の多い団体はいいが、少ない団体は抜けていってしまうのではという懸念がされる。他の方法で何か助成があればうれしいのだが。

【議長】他に変わる補助金はないだろうか。佐藤財団はどうなのか。

【事務局】佐藤財団は青少年を対象としている。

【委員】世の中の流れとして、自分たちの活動に適した助成金を探して、自分から資金を調達していくという流れになっている。市民から行政に提案をし

て協働で行うことで助成を受けるなど、こういうことをやりたいのでお金が必要だとアピールをしていく時代なのだと思う。

【議長】児童対象とか、その様な縛りはないのか。

【委員】そのようなことはない。

【委員】この補助金の目的は、社会教育の振興を図るためとなっている。この補助金がなくなったときに、社会教育の振興を図るために市では何をするのか。お金を出不さない代わりに社会教育の振興を図るための手立てを明確にしておけば、お金のことは致し方ないのかなと思う。もし、新たに継続して補助金をもらおうとなった場合、今まで通り特定の団体にという事ではなく、条件にあてはまるすべての団体に対して行き渡るようなことではないと平等感がない。しかし、そこまでのお金がない。では目的である社会教育の振興のために何をするか。お金はやめる、その代りにこうするという事が出てこない。切るだけでは止まってしまうと思う。

【議長】今までの事務局の説明の中で、決まった形で恒常的にはできないという方向は了解できる。しかし、切るだけではなく、今後新たなお金のかからない支援の方法を考え、それを啓発、PRしていく。社会教育課として市民に周知することが大事ではないか。合わせてやっていかないと誤解を招くことになる。ちなみに、他市ではこのような補助制度はあるのか。

【事務局】同じような要綱があるのは26市中10市である。

【議長】今年度は1団体への補助を決定する。来年度以降については、社会教育課としての啓発や施策の中での努力をお願いしたい。

(3) 青梅市美術館運営委員会委員の推薦について (協議資料 3)
任期満了(平成28年10月6日)に伴う推薦。

ア 任期 平成28年10月7日～平成30年10月6日までの2年間
イ 推薦者

【事務局】事務局から概要説明。

～渋谷委員に推薦決定～

(4) 8月定例会について
～開催しないことで決定～

(5) その他
特になし

4 その他

【事務局】その他の配布物について説明。

【委員】配布された小学生、中学生に向けた全市共通で指導している夏休みのルール。よく読んで子どもたちを見守ってほしい。

次回定例会 平成28年9月20日(火)